

「白鳥通信」<第12号>平成28年10月20日(木)

言語技術

以前勤務した学校の運動部顧問等に心をこめて推薦してきた本の紹介です。『イタリアの選手が退場させられて選手が1人減ってしまったその時、誰1人として、ベンチを見なかった』という文章で始まり、ピッチ上で発生した出来事をどう処理していくか、そのために分析力と判断力を発揮して、決定する「力」、自己決定力を持つていない限り、世界で通用するサッカー選手になることはできない。論理力も表現力もない選手は「スポーツバカ」ですと言いつつ、体力や身体技術と同じくらい、考える能力、筋道を

整理する論理力、言葉による表現力と言った「知的な力」が必要だと訴えています。この本は「言語技術」や「論理力向上」を伴った「サッカー選手の育成」をテーマに書かれています。「サッカー」を他のスポーツ名に変えれば、どのスポーツにも通用する普遍性があります。本の題名は『言語技術』が日本のサッカーを変えろ(田島幸三著・光文社新書)です。スポーツをする生徒、指導する教師にもお勧めの一冊です。生徒への「学ばない子どもは、知らない大人になる」、指導者への「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならぬ」(ロジェ・ルメール)は、含蓄のある言葉です。

- ◎四字熟語シリーズ1
○どう読む、意味は？
①八面玲瓏 ②益者三友
③明鏡止水
(解答)
①はちめんれいろう 心にわだかまりがない。誰とも円満につきあえる。
例文↓八面玲瓏だからどんな組織や会社でもうまくやっています。
②えきしゃさんゆう 正直者、誠実な人、物知りな人を友とすることは有益である。例文↓益者三友に恵まれていて人は幸せです。
③めいきょうしうすい 明るく曇りのない鏡と止まってお澄み切った水。心に邪念がなく、明るく澄み切った心境を表す。
例文↓座禅を組み、微動だにしない禅僧は、明鏡止水の心境に達している。